



グループホームは、私た  
ちの「夢」でした  
現在、太陽の家には、21歳  
から62歳までの11人が通所  
しています。どの人も、重度  
の身体と知的の障がいがあ  
り、家族も将来に不安を  
持っていました。

このグループホームの計  
画は、ここを社会福祉法人  
にする前から、考えていま  
した。それは、以前、通所し  
ていた人の親で、彼をグ  
ループホームへ入所させた

いという夢半ばで亡くなつ  
たご夫婦がみえ、その人た  
ちのためにも、どうしても  
グループホームを）建てた  
かったのです。

建設には、いろんな制約  
があり、計画は進みません  
でした。例えば、県のグル  
ープホームの建設補助の前提  
としては、自力で地域の社  
会参加できる人が、その対  
象と考えられていました。

ここに通っている人のよ  
うに重度の障がい者には、  
自力で社会参加など、ほと  
んど現実的ではありません。  
しかし、たとえ重度の障が  
い者でも、自立した生活は  
あこがれだと思いました。

### 品質に自信があります 「EMぼかし」



EM（有用  
微生物群）ぼ  
かしは、有機  
物を発酵させ  
る働きがあり、  
家庭用生ごみ

をたい肥化します。

「太陽の家」や「Green bird」、JAめぐみの（市内の一部支店）で販売  
しています。

※問い合わせは、太陽の家まで



グループホームの完成予想図

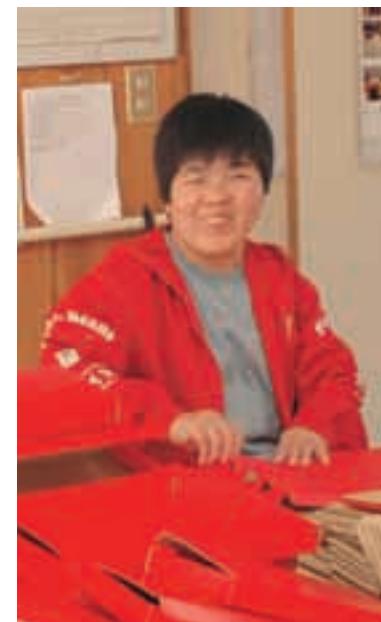
**作業所の隣に、グループホームの建設が始まりました。  
来春、春の日差しが降り注ぐ部屋に、明るい声が響きます。**

**重度の障がい者でも、自立した生活が送  
れるグループホームの建設が「夢」でした。**

社会福祉法人「太陽の家」理事長 坂井久三さん



箱折り／開所以来続いています。丁寧に、でも一つでも多く作ります



笑顔が絶えません



ボカシの袋詰め／品質には、自信があります。みんなで丁寧に作っています  
から



今年は、マツケンサンバに挑戦。大  
好評です

### ヒューマン

最初は、障がい者の言動や行動に、  
戸惑うことが多かつたですが、  
次第に変わっていくのがうれしかったです。



太陽の家  
元指導員  
渡辺幸子さん

昭和57年に太陽の家が設  
立された時から11年ほど、  
在職しました。  
こちらに勤める前まで  
は、保母の仕事をしていました  
が、障がい者のお世話を  
することは初めてだった  
ので、言動や行動に戸惑う  
ことが多かったです。どう  
指導したらよいのか、悩  
んだこともあります。  
そこで、まず心掛けたこ  
とは、彼らの話を聞いてあ  
げるようになりました。そ  
うしたら、一人ひとりに笑顔が出て  
きて、明るくなってきた  
ことが、とても印象深く  
残っています。

こここの良いところは、身  
体障がい者と知的障がい  
者が、一緒に作業など  
行っていたことで、出来  
ないことを助け合うこと  
を学んでいたと思います。  
平成5年に、退職しま  
したが、通所者と離れ難  
いことを助け合うこと  
を行っていたことで、出来  
ないことを助け合うこと  
を学んでいたと思います。  
「福祉の店」の店番をボラ  
ンティアでお手伝いして  
います。



開設間もないころの様子